

愛臨技学部研究班活動報告

所属：血液検査研究班研究班 提出日：2019年4月25日 報告者：川崎 達也

行事種別	研究会	行事番号	190000178	
開催日	2019年4月20日(土)			
時間	開始	15時00分	終了	17時00分
場所	リップルスクエア アーバンネット名古屋ビル 20F (所在地 名古屋市)			
テーマ	症例検討会(血小板編)			
生涯教育履修点数	専門教科 20点			
司会	JA愛知厚生連 江南厚生病院 川崎達也			
講師	<p>【総論】名古屋第二赤十字病院 白木 涼</p> <p>【症例1：前骨髄性白血病】地域医療機能推進機構 中京病院 楠木 啓史</p> <p>【症例2：本態性血小板血症】JA愛知厚生連 豊田厚生病院 藤上 卓馬</p> <p>【症例3：フォン・ヴィルブランド病】JA愛知厚生連 豊田厚生病院 酒巻 尚子</p>			
内容	<p>▶今回の研究会では血小板の量的、質的異常に関する症例検討を行った。初めに『血小板の総論』の講義を行った後に準備した3症例の検討を行った。</p> <p>以下に症例検討の流れを示す。</p> <p><症例検討の流れ></p> <p>①症例データ提示(5分) ②講師は参加者に質問(検査異常値、追加すべき検査、推測される疾患等)を交え症例の解説(20分) ③会場への質疑(5分)</p> <p>▶血小板の総論では血小板の機能や血小板に関する様々な検査と病態との関係について注意ポイントを交えながら解説を行った。症例検討では急性前骨髄球性白血病(acute promyelocytic leukemia; APL)、本態性血小板血症(Essential Thrombocythemia; ET)、フォン・ヴィレブランド病(von Willebrand disease; VWD)の3症例を通し血小板の増減や機能異常について検査データの解釈の仕方、診断へのアプローチをするための追加検査、病態の解説等を行った。</p> <p>▶今回は時間の都合上3症例ではあったがAPLでは汎血球減少やDICについてまた血液像検査の大切さについてETでは他の骨髄増殖性腫瘍との鑑別のポイントや検査の進め方や遺伝子変異解析について、VWDではAPTT延長時の考え方、検査の進め方の解説がなされた。それぞれの症例検討で病態のメカニズムなど詳細に解説を行ったため血小板の数的異常、機能的異常の病態に対し理解が深まり臨床にデータを報告するうえでも役立つ大変有意義な研究会であった。</p>			
参加者	総数：45名(会員45名、非会員0名、賛助会員0名、学生0名、その他0名)			
共催、後援など	無			

愛臨技学部研究班活動報告

所属：血液検査研究班研究班 提出日：2019年7月25日 報告者：藤上 卓馬

行事種別	研究会	行事番号	190007669	
開催日	2019年7月20日(土)			
時間	開始	15時00分	終了	17時00分
場所	リップルスクエア アーバンネット名古屋ビル20F (所在地 名古屋市)			
テーマ	造血器腫瘍における遺伝子・染色体検査について			
生涯教育履修点数	専門教科 20点			
司会	JA愛知厚生連 豊田厚生病院 藤上 卓馬			
講師	<p>講演1.「骨髄増殖性腫瘍における遺伝子検査と最近の話題」 シスメックス株式会社 林 文明</p> <p>講演2.「造血器腫瘍を血液検査室と遺伝子検査室から考える」 名古屋大学医学部附属病院 山本 ゆか子 名古屋大学医学部附属病院 渡邊 かなえ</p>			
内容	<p>講演1では、骨髄増殖性腫瘍における遺伝子検査と最近の話題としてCMLにフォーカスを置き、BCR-ABL1遺伝子のバリエーション、TKI療法の治療効果の目標や分子遺伝学的奏功(MR)におけるDMR等の判定基準やTKI中止試験の現状、分子遺伝学的効果の指標であるInternational scale(IS)について説明して頂いた。後半ではPV、ET、PMFにおけるJAK2 V617F、MPL変異、CALR変異、JAK2 exon12変異などのドライバー遺伝子異常の保有の割合や骨髄増殖性腫瘍における非ドライバー遺伝子変異がMFや白血病移行に有意であること、予後への影響について説明して頂いた。骨髄増殖性腫瘍における遺伝子検査や治療効果等を最近の話題を含めて解説して大変わかりやすい内容であった。</p> <p>講演2では、初めに遺伝子検査の基礎的内容や検査の進め方について説明があり、各症例を血液検査室の山本 ゆか子技師が患者データ(血液像、骨髄像、FCMなど)から推測される疾患を答えてもらう会場参加型とし、渡邊 かなえ技師に変わり遺伝子検査室との関わり方やFISH法のスプリットシグナルの確認、リアルタイムPCR法の融合遺伝子タイプの確認など検査結果について5症例をご講演していただいた。遺伝子検査がない施設の方も多く、普段は学ぶことのできない検査方法や検査材料の取り扱い方、結果解釈について学ぶことができ大変有意義な研究会であった。</p>			
参加者	総数：46名(会員43名、非会員0名、賛助会員3名、学生0名、その他0名)			
共催、後援など	無			

2019.7.21

愛臨技学術部研究班活動報告

所属：血液検査研究班研究班 提出日：2019年10月22日 報告者：寺島 舞

行事種別	講演会	行事番号	190016962	
開催日	2019年10月19日(土)			
時間	開始	15時00分	終了	17時00分
場所	名古屋第二赤十字病院 第3病棟1階 研修ホール (所在地 名古屋市)			
テーマ	みんなで学ぼう!! 造血幹細胞移植について			
生涯教育履修点数	専門教科 20点			
司会	愛知医科大学病院 寺島 舞			
講師	<p>講演1. 「臨床検査技師からみた幹細胞採取から移植まで」</p> <p style="text-align: right;">藤田医科大学病院 松浦 秀哲 藤田医科大学病院 水谷 有希</p> <p>講演2. 「造血幹細胞移植の基礎」</p> <p style="text-align: right;">愛知医科大学病院 血液内科 中村 文乃</p>			
内容	<p>講演1では、血液検査担当技師より、CD34陽性細胞測定の意義や測定方法について詳細に説明して頂いた。また、輸血検査担当技師より、造血幹細胞移植の種類や基礎的内容、末梢血幹細胞移植のためのアフエレーシスの方法について解説して頂いた。アフエレーシス中患者は、3～4時間自由に動くことができないため、技師が患者状態の変化へ慎重に対応していることや特に凝血予防のため投与するACD-A液の影響でクエン酸中毒になりやすいこと等、血液検査担当技師ではなかなか知ることができない内容を聞くことが出来て知識の向上になった。また、採取前日から当日にかけてCD34陽性細胞数の増加率が高い場合では、陽性細胞数が低値であっても移植後の生着率が高く、細胞測定をしていく上で大変参考になる内容であった。</p> <p>講演2では、血液内科医師よりドクター目線での造血幹細胞移植についてご講演を頂いた。初めに造血幹細胞移植の歴史や適応、自家移植と同種移植の違いなどについて説明があり、造血幹細胞移植を受ける場合の流れについて詳細にお話しして頂いた。造血幹細胞移植を実施すること自体、患者の状態管理やHLAの合致したドナーを見つけることは簡単ではなく、運良く移植できた場合においてもその後のGVHDや感染症との闘い、さらに帰宅後の生活をフォローするためにも、様々な職種の医療スタッフが関わっていることを痛感させられる内容であった。また、プレリキサホルの投与時期や使用の是非の見極め方、前処置毒性などについて学ぶことができ大変有意義な講演会であった。</p>			
参加者	総数：67名(会員66名、非会員0名、賛助会員0名、学生0名、その他1名)			
共催、後援など	無			

2019.10.20

愛臨技学術部研究班活動報告

所属：血液研究班 提出日：2020年2月17日 報告者：宮本 康平

行事種別	基礎講座	行事番号	190030733	
開催日	2020年2月15日(土)			
時間	開始	15時00分	終了	17時00分
場所	スズケン名古屋支店(名古屋市東区東片端町1)			
テーマ	講演1. 2019年度精度管理調査結果報告 講演2. 血液検査運用について			
生涯教育履修点数	基礎教科 20点			
司会	医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院		宮本 康平	
講師	講演1. 『2019年度血液部門精度管理調査報告』 ～血球計数検査・形態検査・凝固検査・アンケート結果～ 国立病院機構 名古屋医療センター 棚橋 真規夫 JA 愛知厚生連稲沢厚生病院 蒲澤 康晃 講演2. 『どんなときに塗抹標本を引くのか?』～運用やマニュアルの観点から～ 名古屋大学医学部附属病院 亀山 なつみ			
内容	講演1として、国立病院機構 名古屋医療センターの棚橋真規夫技師・JA 愛知厚生連稲沢厚生病院の蒲澤康晃技師から「2019年度血液部門精度管理調査報告」を講演2として、名古屋大学医学部附属病院の亀山なつみ技師から「どんなときに塗抹標本を引くのか?～運用やマニュアルの観点から～」について講演があった。講演1では、棚橋真規夫技師が血算の外部精度管理報告・アンケート集計について、蒲澤康晃技師が形態学の外部精度管理報告・凝固の設問問題についてわかりやすく解説していただいた。外部精度管理の結果は、血算、形態、凝固設問ともにほとんどの施設がA・B評価をとることができていた。アンケート調査では、凝固外部精度管理の内容が中心となっていた。講演2では、塗抹標本を引く条件に付いて、5施設の運用を例に詳しく解説していただいた。他施設の条件を知る機会がめったにないことだったので、とても興味深い内容であった。施設によって、検体数に対する塗抹標本の割合がさまざまであり、施設の特色が表れていた。			
参加者	総数：65名(愛知県会員64名、非会員0名、賛助会員1名、学生0名、その他0名)			
共催、後援など	無			